

## 6. 音楽科論文

自ら学び続ける授業の創造Ⅲ

音楽へのあこがれをもち、こだわって取り組む授業の創造Ⅲ  
～音楽づくりにあこがれ、こだわるおもいをもち続ける学習指導～



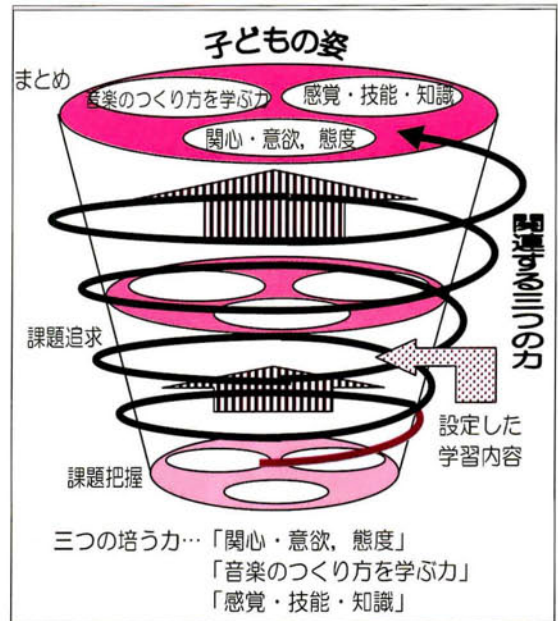
I 研究の立場	75
1 研究の歩み	75
2 本年度の研究の方向	75
II 本年度の研究内容	76
1 音楽づくりにあこがれ、こだわるおもいをもち続けるとは	76
2 音楽づくりにあこがれ、こだわるおもいをもち続ける学習指導とは	77
3 音楽づくりにあこがれ、こだわるおもいをもち続ける学習指導の具体化	78
(1) 音楽づくりにあこがれ、こだわるおもいをもち続ける学習内容	78
(2) 音楽づくりにあこがれ、こだわるおもいをもち続ける指導方法	78
III 授業プラン例	81
1 第4学年題材「リズムにのって」(リズムづくり)	81
2 第6学年題材「情景を音楽で表そう」(自由な音楽づくり)	83
IV 研究の成果と課題	85
1 研究の成果	85
2 研究の課題	85

## I 研究の立場

### 1 研究の歩み

本校音楽科では、平成18年度より「音楽へのあこがれをもち、こだわって取り組む音楽科授業の創造」のテーマの下、自ら学ぶ意欲を高めるような子どもの姿を研究してきた。具体的には、子どもが音楽を聴いて「いいなあ。自分もつくってみたい。」というあこがれをもち、自分のつくった音楽に対し自分が表現しようとする音楽にこだわりをもって取り組んでいく姿を探ってきた。

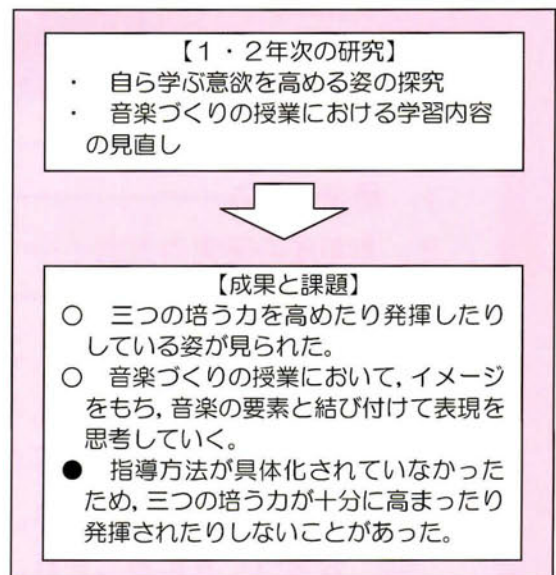
その結果、1年次の研究の成果として、音楽へのあこがれをもち、こだわって取り組む子どもの姿とは、三つの培う力（図1参照）を関連させながら高め、発揮している状態であることが明らかになった。そして、そのような子どもの姿が見られるためには、創造的に学習が展開されていくような学習内容が有効であることが、授業実践を通して明らかになった。



【図1 音楽へのあこがれをもち、こだわって取り組む子どもの姿】

2年次の研究の成果として、創造的に学習が展開されていくような学習内容が多く含まれる「創作（音楽づくり）」の授業において、子どもが三つの培う力を関連させながらより高めたり発揮したりすることが分かった。また、学習内容設定の考え方として、子どもが確かにイメージをもち、イメージと音楽の要素とをしっかり結び付けられるような学習内容を設定することが大切であることが、授業実践を通して明らかになった。さらに、学年の発達段階に応じた自己評価の在り方や、その有用性について明らかにすることができた。

その一方、1・2年次研究の課題として、子どもがあこがれをもってこだわって音楽づくりに取り組むための指導方法が十分に具体化されていなかったことが挙げられる。そのため、設定した学習内容が妥当なものであっても、指導方法が十分でなかったために、三つの培う力が高まらなかったり、発揮されなかったりしたまま音楽づくりの活動が進んでしまう状況が見られることがあった。



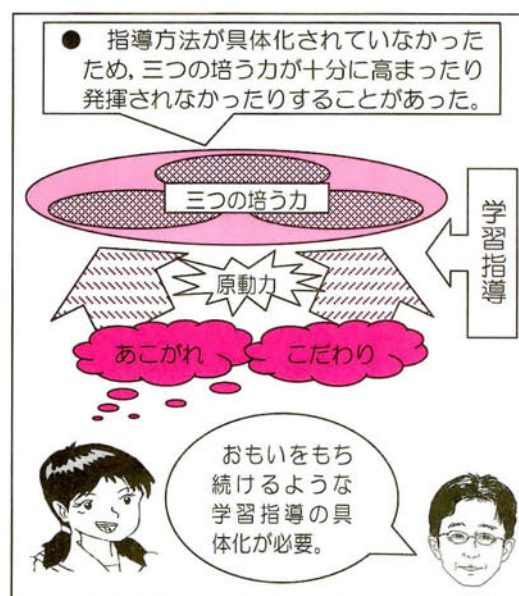
【図2 研究の歩み】

### 2 本年度の研究の方向

これまでの研究の成果と課題を踏まえ、本年度は「音楽へのあこがれをもち、こだわって取り組む音楽科授業の創造」の研究のまとめをしていきたい。

本年度は、これまでの研究で明らかになった学習内容設定の考え方を根底に置き、子どもがあこがれをもってこだわって音楽づくりに取り組むための指導方法に焦点を当てて、研究を進めていくことにした。

そのためには、音楽へのあこがれをもち、こだわって取り組む子どもの姿を確実に表出させるための**学習指導**（学習内容、指導方法を含んだもの）を**具体化**していくことが必要である。それに加え、前項で述べたとおり、「三つの培う力が高まらなかったり、発揮されなかったりしたまま音楽づくりの活動が進んでしまう」という課題を受け、三つの培う力の原動力となっているあこがれるおもいやこだわるおもいという部分に着目し、そのおもいをもち続けるような学習指導を具体化していく必要があると考えた。以上のことから、本年度は次のような研究主題を設定した。



【図3 研究の方向】

### 【研究主題】

音楽へのあこがれをもち、こだわって取り組む音楽科授業の創造Ⅲ  
～音楽づくりにあこがれ、こだわるおもいをもち続ける学習指導～

## Ⅱ 本年度の研究内容

### 1 音楽づくりにあこがれ、こだわるおもいをもち続けるとは

子どもは個人やペア、グループでの活動を通して音楽づくりをしていく上で、三つの培う力を関連させて高めたり発揮したりしていく。その一連のプロセスの中で、三つの培う力を高めたり発揮したりしていく原動力となるのは、まず、**創作作品例を聴き、「自分もやってみたいな。」**といった、**音楽に対するあこがれをもち**ことである。それは、特に題材の始まる「課題把握」の過程で見られるおもいである。そこでは「こんなふうに音楽をつくっていけばいいのか。」という効力感や「この楽器が必要だ。」という必要感といった「あこがれ、こだわるおもいをもち続ける基になる感覚」を相互に関連し合わせていると考えられる。

次に、自分のつくった表現を吟味する中で、「この楽器とこの楽器を組み合わせで鳴らした方が〇〇な感じが出るぞ。」といった、**音楽に対するこだわりをもち**ことである。それは、主に題材の中間部分の「課題追求Ⅰ・Ⅱ」の過程で見られるおもいである。そこでは「強弱を工夫してみよう。」という自己決定感や「私の音は〇〇な感じが出ているぞ。」という有用感、さらには「自分の音が認められた。」という受容感といった「あこがれ、こだわるおもいをもち続ける基になる感覚」を相互に関連し合わせていると考えられる。それらの感覚を基にして、子どもはあこがれ、こだわるおもいをもち続けることができ、三つの培う力を関連させて高めたり発揮したりすることができる。と考える。

つまり、「音楽づくりにあこがれ、こだわるおもいをもち続ける」とは、音楽づくりを進めていく一連の課題解決の過程の中で「あこがれ、こだわるおもいをもち続ける基になる感覚」が働くことで、三つの培う力が高まったり、発揮されたりしていることであると考える。次頁に「音楽づくりにあこがれ、こだわるおもいをもち続ける感覚」の例を示す。

【表1 学習過程ごとに見られる、音楽づくりにあこがれ、こだわるおもいをもち続ける基になる感覚の例】

学習過程	主な学習活動	あこがれるおもいをもち続ける基になる感覚の例	こだわるおもいをもち続ける基になる感覚の例
課題把握	・ 範奏・範唱を聴く ・ 音楽づくりの作品例を演奏する	◎ 効力感 「こんなふうに音楽をつくればいいの。私もやってみたいな。」	◎ 自己決定感 「自分のイメージしたような音楽をつくるぞ。」
課題追求Ⅰ	・ イメージを設定し、音楽づくりをする中で、イメージと音楽の要素とを結び付ける ・ 練習する	◎ 必要感 「〇〇な感じを出すためには、この楽器とこの楽器が必要だ。」	◎ 有用感 「ぼくの音は、〇〇な感じを表すために絶対必要なんだな。」 ◎ 効力感 「自分のイメージした音楽に近づいているぞ。」
相互発表・鑑賞Ⅰ (中間発表)	・ 自分のつくった音楽を発表する ・ 友達のつくった音楽を鑑賞する	○ 有能感 「みんなの前で発表できた。最終発表は〇班のようにもっといい演奏をするぞ。」	○ 有能感 「自分のイメージしたような音楽づくりが、ひとまずできたよ。」
課題追求Ⅱ	・ イメージと音楽の要素との結び付けを改善する ・ 練習する	○ 自己決定感 「自分のイメージがもっと伝わるように、△△を工夫してみるよ。」	○ 自己決定感 「中間発表ではもっと音を小さくと言われたんだけど、やっぱり大きいほうがいいよ。」
相互発表・鑑賞Ⅱ (最終発表)	・ 自分のつくった音楽を発表する ・ 友達のつくった音楽を鑑賞する	○ 受容感 「ぼくの班の〇〇な感じは、△班のようにあの楽器を使えばもっと出せたんだな。」	◎ 受容感 「私のつくった音楽は△△な感じがよく伝わるってほめられたよ。」
まとめ	・ これまでの学習を振り返る	○ 受容感 「次は、〇〇さんのような音楽をつくりたいな。」	○ 有能感 「自分のイメージしたような音楽づくりができたよ。」

◎ よく見られる感覚      ○ 見られる感覚

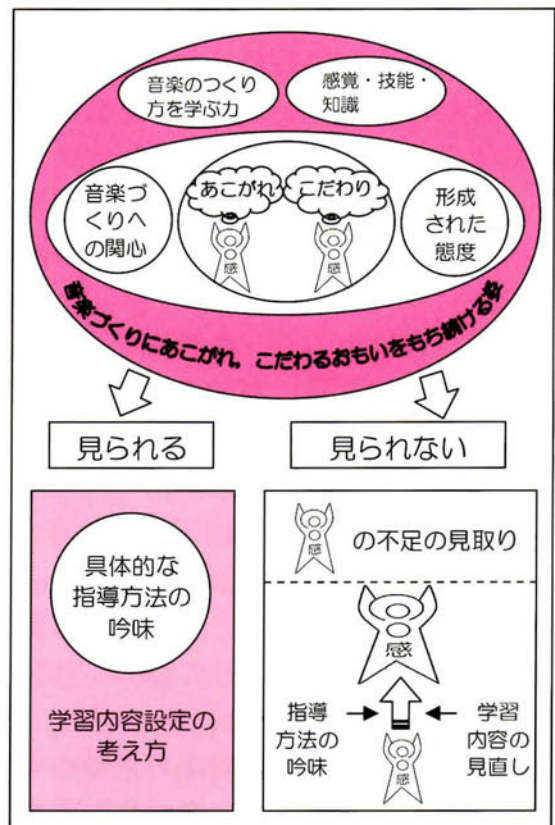
## 2 音楽づくりにあこがれ、こだわるおもいをもち続ける学習指導とは

子どもの、音楽づくりへのあこがれるおもいやこだわるおもいを着眼点にし、そのおもいをもち続ける姿を見取り、分析することで、三つの培う力が身に付けられているかが分かる。

おもいをもち続けている姿が見られるときは、2年次研究で明らかになった学習内容設定の考え方を根底にして、具体的な指導方法を吟味していくようにする。

おもいをもち続けている姿が見られないときには、「音楽づくりにあこがれ、こだわるおもいをもち続ける基になる感覚」のどの部分の感じ取りが不足しているかを見取り、その視点から学習内容の見直しや、指導方法の吟味を行っていくようにする。

つまり、音楽づくりにあこがれ、こだわるおもいをもち続ける学習指導とは、三つの培う力を確実に高めたり発揮させたりするための、イメージを大切に学習内容や指導方法のことである。



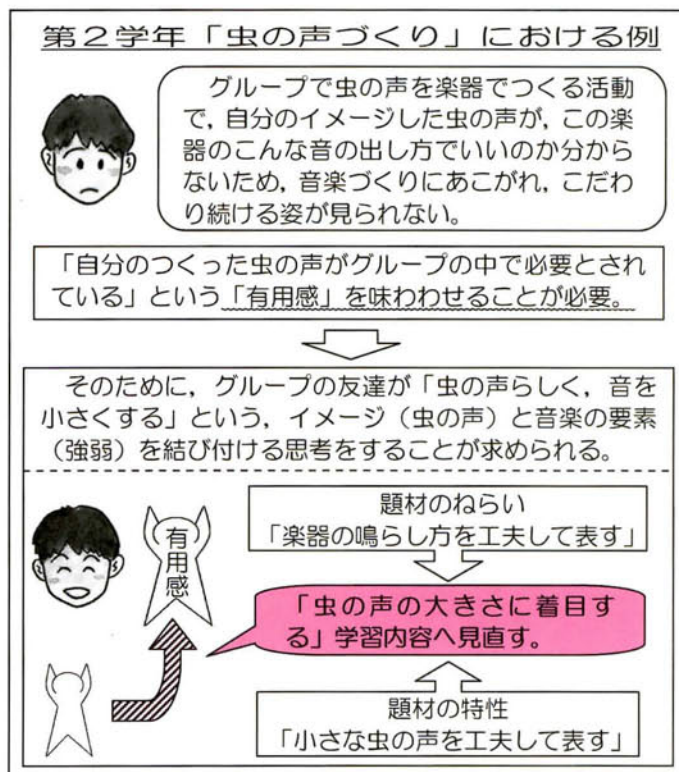
【図4 音楽づくりにあこがれ、こだわるおもいをもち続ける学習指導】

### 3 音楽づくりにあこがれ、こだわるおもいをもち続ける学習指導の具体化

#### (1) 音楽づくりにあこがれ、こだわるおもいをもち続ける学習内容

2年次研究において、音楽へのあこがれをもち、こだわって取り組む子どもの姿が見られるためには、イメージを明確にもち、そのイメージと音楽の要素とをしっかりと結び付けられるような学習内容を設定することが有効であることを明らかにしている。基本的には、本年度の研究もその学習内容設定の考え方を根底に置く。

図5のように、音楽づくりにあこがれ、こだわりをもち続ける姿が見られないときには、「音楽づくりにあこがれ、こだわるおもいをもち続ける基になる感覚」に着目する。そして、現在不足していると考えられる感覚（【表1】参照）を感じさせられるように、題材のねらいや特性から見直していくようにする。



【図5】音楽づくりにあこがれ、こだわるおもいをもち続ける学習内容の例

#### (2) 音楽づくりにあこがれ、こだわるおもいをもち続ける指導方法

学習内容設定の考え方を根底にして、子どもが音楽づくりにあこがれ、こだわるおもいをもち続けることができるような指導方法を検討し、それを「指導方法の要件」としてまとめた。

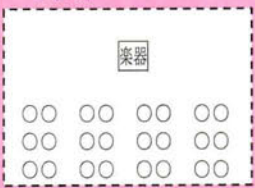
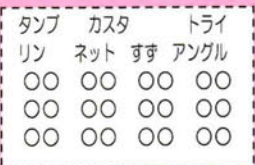
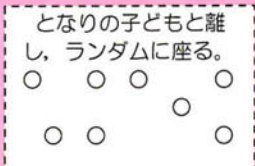


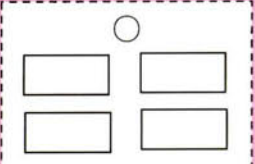
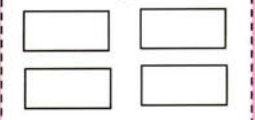
要件設定の考え方として、その中心のあるのが場の設定の大切さである。各学年で重点的に位置付けることにした。また、三つの音楽づくりのパターン（音遊び、リズム・ふしづくり、自由な音楽づくり）で指導方法が異なってくるため、三つに分けて検討していくようにした。具体的には、パターンごとに指導方法の視点として「学習過程」、「学習活動」、「学習形態」、「学習の場」、「教師の具体的な働きかけ」、「評価方法」を設けた。また、各パターンにおいては同じような指導方法で学習を進めていけるため、パターンごとに要件を設定した。

さらに、題材レベルにおいては、各パターンの指導方法の要件を通した、具体的な指導方法を位置付けることにした。この要件を基にして、各学年の発達段階を考慮し、指導計画を立てていくことになる。次ページ【表2】に、三つの音楽づくりのパターンのうち、「音遊び」のパターンにおける指導方法の要件を例として示す。



【音楽づくりを進める子どもに働きかける教師】

【表2 音楽づくりパターン「音遊び」における指導方法の要件】

学習過程	学習活動	学習形態	学習の場（環境設定）	教師の具体的な働きかけ	評価方法
課題把握	1 作品例を聴く。 【作品例のイメージ】 1年…楽しくスキップしながら学校へ行きます。 2年…楽しくスキップしながら学校へ行きますが、途中で雨がふってきました。さあたいへん。	全	○ 一斉に聴いたり演奏したりすることができるような場 	○ 音楽づくりへの意欲付けを図るために、創作作品例を聴かせるようにする。  ○ 設定しているイメージと音楽の要素とを結び付けることができるようにするために「どうしてスキップするのはタンブリンの音がいいのかな。」や「どうしてタンブリンを激しく振っているのかな。」などと問いかける。	1 鑑賞態度の観察
	2 感じたことや気付いたことを話し合う。	全→個	○ 楽器ごとの演奏をすることができるような場 	【作品例の演奏の仕方】 1年…タツカのリズムでタンブリンをたたく。小さい音→大きい音にすると、期待の高まりも表現できる。 2年…タツカのリズムでタンブリンをたたいているが、途中から激しく振る。小さい音→大きい音にすると、雨の降ってくる様子がさらに表現できる。	2 感想発表
	3 作品例を演奏する。	個⇄全	○ 音楽づくりへの苦手意識をなくすために、作品例を演奏させるようにする。  ○ 技能を確かなものにするために、楽器の持ち方を知らせるようにする。	○ 音楽づくりへの苦手意識をなくすために、作品例を演奏させるようにする。  ○ 技能を確かなものにするために、楽器の持ち方を知らせるようにする。	3 練習の様子観察 演奏発表
課題追求	1 おはなしづくり（イメージ設定）をする。	個	○ 個人で音楽づくりができるような場	○ イメージをもたせやすくするために、日常生活の中の場面を想起させる。	1 様子観察
	2 おはなしに合うような音楽づくりをする。	ペア	○ とりの子どもと離し、ランダムに座る。 	○ 多様なイメージを引き出すために、設定したイメージを全体で紹介し合う。	2 練習の様子観察
	3 つくった音楽を、となりの友達どうして聴き合う。	ペア・個	○ イメージを明確にもたせるために、「どうしてカスタネットを選んだの。」や「どうしてその速さにしたの。」などの音楽の要素と結び付いているのかを尋ねるようにする。	○ イメージを明確にもたせるために、「どうしてカスタネットを選んだの。」や「どうしてその速さにしたの。」など、どの音楽の要素と結び付いているのかを尋ねるようにする。	3 活動の様子観察 演奏発表
	4 聴いてもらった友達や先生からアドバイスをもらう。	個	○ ペアで学び合いができるような場 	【ここでの音楽の要素】 リズム、速度、音色（楽器） 発展として強弱	4 話し合いの様子観察
	5 友達や先生のアドバイスを基にして、再度音楽づくりをする。	個	○ ペアで学び合いができるような場 	○ イメージと音楽の要素との結び付きを明確にするために、出てきた意見を黒板に整理する。	5 練習の様子観察
相互発表・鑑賞	1 つくった音楽を発表する。	個→全	○ 発表の場 	○ 聴く側が音楽の要素を想像しながら聴くことができるようにするために、設定したイメージを発表してから演奏させるようにする。	1 演奏発表
	2 発表に対する意見・感想を話し合う。	個⇄全	○ 発表の場 	○ 意見・感想発表の際は、発表した子どもが達成感を味わえるように、よかったところを中心に述べさせるようにする。	2 感想発表
まとめ	1 この学習を通して楽しかったことや、できるようになったことを話し合う。	個 ↓ 全	○ 一斉に友達の意見や感想が聞けるような場	○ 次の題材も意欲をもってがんばろうという態度をもたせるために、楽しかったことやできるようになったことを発表させるようにする。  ○ 次の題材も意欲をもってがんばろうという態度をもたせるために、イメージと音楽の要素とを結び付けた演奏ができたことを称賛する。	1 感想発表  2 学習カード

指導方法がより効果的に働くためには、子どもが音楽づくりにあこがれ、こだわるおもいを持ち続けているかを見取るための、教師側の評価や自己評価、相互評価が大切である。

教師側の評価は、題材の目標から分析したものを評価規準として設定し、三つの培う力ごとに見取る観点を設定したものを基に行っていく。授業実践を通して明らかになった具体的な評価方法は、以下の【表3】の通りである。「関心・意欲、態度」は様子観察や記述等で、「音楽のつくり方を学ぶ力」は言語表現等で、「感覚・技能・知識」は音楽表現等で評価していくと見取りやすいことが明らかになった。

【表3 音楽づくりにおける具体的な評価方法と、三つの培う力の見取りやすさの関係】

具体的な評価方法			関心・意欲、態度	音楽のつくり方を学ぶ力	感覚・技能・知識
言語表現	意見・感想発表	範奏や範唱を聴いたり、友達のつくった音楽を聴いたりして、それに対する意見や感想で見取る。	○	◎	○
	話合いの様子観察	グループやペアの活動の中で、どのような意見のやりとりで行われているか、話合いの様子で見取る。	○	◎	○
音楽表現	練習の様子観察	個人やペア、グループの中での練習の様子で見取る。	◎	○	◎
	演奏発表	相互発表・鑑賞の過程で、演奏発表を聴くことで見取る。	△	○	◎
鑑賞	鑑賞の様子観察	範奏・範唱や友達のつくった音楽を聴いている様子で見取る。	○	△	△
記述	楽譜・図形楽譜	つくった音楽を記譜した楽譜や図形楽譜で見取る。	△	○	○
	学習カード	学習前や学習後の感想、友達の演奏に対する感想等を書いた学習カードで見取る。	◎	◎	○

◎ 十分に見取りやすい    ○ 見取りやすい    △ 見取りにくい

また、2年次の研究において、「関心・意欲、態度」に対する自己評価の基本的な考え方を確立している。特に、題材の学習前の自己評価と学習後の自己評価を比較し、「関心・意欲、態度」の高まった自分の姿を見つめ、自分自身を高めていく力を付けられるようにした。

さらに、音楽づくりの活動においては、自分のつくった音楽にかかわるのはもちろんであるが、友達のつくった音楽にも耳を傾け、感じ取ることが内容的にも時間的にも大きなウエイトを占めており、つくった音楽に対して互いに評価していくことが大切であると考ええる。本年度は、2年次に研究したその自己評価の考えを踏襲しながら、互いのよさを認め合うことができるような相互評価の在り方も明らかにした。

具体的には、「相互発表・鑑賞Ⅰ・Ⅱ」の学習過程において、三つの培う力が高まったり発揮したりしていたかを、つくった音楽のよさという点から互いに認め合う学び合いの場を設定したり、「課題追求Ⅰ・Ⅱ」の過程において、つくっている途中の段階で互いに意見を述べ合う学び合いの場を設定したりした。その活動の中で、次時に向けて互いのつくった音楽をさらに向上させられるように形成的評価をしていくことが大切であると考ええる。


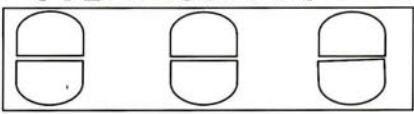
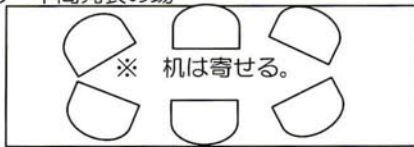

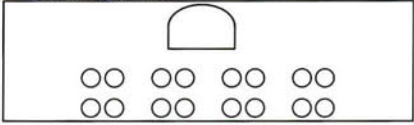
【図6 自己・相互評価を盛り込んだ学習カード】

### Ⅲ 授業プラン例

**題材名「リズムにのって」(4年 4月～5月・全8時間)**

- 【題材の目標】**
- リズムの組合せに関心を持ち、拍の流れにのって表現できているかを振り返りながら、進んで活動に取り組むことができる。【関心・意欲、態度】
  - 自分たちのイメージに合うリズムフレーズや、楽器の組合せを考えながら、イメージに合ったリズム伴奏を工夫することができる。【音楽のつくり方を学ぶ力】
  - 拍の流れにのってリズムフレーズやリズム伴奏を演奏することができる。【感覚・技能・知識】

教材…「ブラジル」パローソ作曲/リズムあそび/「おどれサンバ」中村佐和子作詞ブラジル民謡/「いろんな木の実」中山知子作詞西インド諸島民謡

学習過程	学 習 活 動	学習の場・形態 (○…椅子 □…机)
課題把握	リズムや楽器の音色に気を付けてきこう。 ○ 「ブラジル」を聴き、曲の感じや演奏している楽器の音色について話し合う。 ○ サンバのリズムに合わせて、身体反応をする。 ○ ペアになり、手拍子や足拍子で4拍子のリズム模倣やリズム問答をする。	○ 一斉に聴くことができ、ペアでの活動ができるような場 (全→ペア) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                         スピーカー                      スピーカー                          ○○ ○○ ○○ ○○                          ○○ ○○ ○○ ○○                          ○○ ○○ ○○ ○○                     </div>
課題追求Ⅰ	リズムにのって楽しく歌おう。 ○ 「おどれサンバ」を聴き、曲の感じについて話し合う。 ○ 歌詞唱し、旋律把握をする。 ○ 「ばんそう」のふしを歌って、サンバのリズムを楽しむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                         歌と楽器のリズムを組み合わせて、サンバのリズムをえんそうしよう。                     </div> ○ 「ばんそう」の範奏を聴き、演奏している楽器の音色やリズムについて話し合う。 ○ グループで役割を決め、練習する。 ○ グループごとに発表する。	○ グループごとに活動できるような場 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">  </div> ○ 楽器ごとに活動ができるような場 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                         シェーカー                          アゴゴベル                      フロアートム                     </div>
課題追求Ⅱ	リズムにのって楽しく歌おう。 ○ 「いろんな木の実」を聴き、曲の感じについて話し合う。 ○ リズムにのって二部合唱する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                         リズムばんそうを組み合わせて、曲に合わせてえんそうしよう。                     </div> ○ グループごとに、自分たちのイメージに合うようなリズム伴奏をつくる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                         自分たちのイメージに合っているか気を付けながら、つくったリズム伴奏の中間発表をしよう。                     </div> ○ 中間発表・鑑賞する。 ○ さらに工夫することを話し合う。	○ 一斉に聴くことができるような場 ○ グループごとに活動できるような場 → 学び合いができるような場 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">  </div> ○ 中間発表の場 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">  </div> ○ 練り上げの活動ができるような場 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">  </div>
まとめ	つくったリズム伴奏を練り上げよう。 ○ 発表での反省を基に、さらに練り上げる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                         つくったリズム伴奏の最終発表をしよう。                     </div> ○ 相互発表・鑑賞する。 ○ 学習のまとめをする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                         ・ 陽気なイメージを出すために、楽器の組合せ方を考えてつくっていくのが楽しかった。                          ・ にぎやかなイメージがでるように、リズム伴奏を速く演奏できた。                     </div>	○ 最終発表の場 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">  </div> ○ 一斉に友達の意見や感想が聞けるような場



【こんな学習内容に】

子どもが音楽づくりにあこがれ、こだわる思いをもち続けるために、自分たちでイメージを設定し、そのイメージに合うような音色の楽器やリズムを組み合わせて、リズム伴奏をつくるような学習内容を設定しました。

【ここだけはおさえたい】

4年生の「リズム・ふしづくり」の活動では、音楽の要素の中でもリズム、強弱、速度、音色を工夫しながら、音楽づくりを進めていくことが大切になります。自分たちの設定したイメージを、これらの要素と結び付けていくことによって、「こんなイメージだからこんな音色の楽器を使った」というように自分たちの音楽へのこだわりも生まれます。音楽づくりはもちろん、作品の鑑賞や自己評価・相互評価の中でも、絶えずイメージと音楽の要素とを結び付けられるような発問や指示をするとよいでしょう。

教師の具体的な働きかけ

- イメージをふくらませることができるようするために、リオのカーニバルの写真を見せるようにする。

【子どもたちの反応】

- ・ すごく派手な衣装だ。
- ・ 笑い声やにぎやかな音が聞こえそう。
- ・ 日本にはないような感じ。

- 子どもたちにサンバの雰囲気味わわせるために、ラテン楽器を準備し、簡単な鳴らし方を説明する。

- サンバのリズムに親しむために、体を揺らすなどの身体反応の活動を取り入れるようにする。

- 楽器ごとのリズムの違いを感じ取ることができるようするために、リズムを口ずさむ活動を取り入れるようにする。

リズム	楽器	リズム、強弱、速度、音色のイメージを言葉で表す
シンコペーション	シンコペーション	リズム、強弱、速度、音色のイメージを言葉で表す

- リズムによって、歌うことができるようにするために、シンコペーションのリズムに気を付けて歌わせるようにする。

【ワークシート例】

- リズム伴奏の工夫がスムーズにできるようにするために、曲に対するイメージをもたせ、ワークシートに記入させるようにする。

- 自分たちのイメージにふさわしい音色の楽器やリズムとはどんなものかを考えるよう助言する。

- イメージが偏らないようにするために、歌詞に必ずしもとらわれなくてよいことを伝える。

【子どもたちが設定したイメージ】

- ・ 暑い夏の日にみんなでおどっている様子
- ・ いろいろな動物が出てきて楽しい様子
- ・ いろいろな果物がなっている様子
- ・ 動物たちが楽しくおどっている様子
- ・ 楽しくスキップをしている様子
- ・ ほかほかした陽気でのんびりした様子

- 聴く側が、イメージと音楽の要素とを結び付けて聴くことができるようにするために、設定したイメージを発表してから演奏させるようにする。

- 次時の練り上げの活動でのねらいがもてるようにするために、他のグループの演奏を聴き、自分たちの演奏の参考となるような場の設定を行うようにする。



【練り上げの風景】

- 最終発表に向けて、自分たちの作品が友達のアドバイスをもとに、どのように変わったか述べられるようにさせておく。

- 自分や友達の高まりを振り返ることができるようにするために、なぜ学習に一生懸命取り組めたのかということや、自分や友達が工夫したこと、技能が高まったことなどについて、学習カードで振り返らせるようにする。

相互評価の際は、ただ友達のよいところを書かせるのではなく、「演奏の高まりについて」や、「イメージに合うような工夫について」というような観点を与えて書かせるようにします。これを繰り返すことで、音楽的側面から友達を評価する目が育っていきます。

評価規準 (○) と手立て (▲)

- イメージを明確にもつことができる。
- ▲ 写真の情景や、人々の表情、服の色に着目させ、それらからどのようなイメージを連想するか問いかけたり、映像を見せてリオのカーニバルについて補説したりする。

- 楽器の基本的な奏法を理解することができる。

- ▲ 正しい奏法とそうでない奏法を教師が提示し、音色の違いをとらえさせる。

- サンバのリズムによって演奏したり、身体反応をしたりすることができる。

- ▲ リズム唱を教師と模倣形式でしたり肩を軽く叩いて拍の流れを感じさせたりする。



【グループでの練習風景】

- イメージと音楽の要素とを結び付けて、楽器やリズムの工夫ができる。

- ▲ リズムづくりが進まない子には、教師がいろいろなリズムパターンを提示し、「このリズムだったらどんな感じがする？」と問いかけるようにする。

- ▲ 同じ楽器を選択した子どもたち同士で集まり、お互いの作品を聴き合うようにする。

- 友達の作品について、イメージと音楽の要素とを結び付けて意見や感想を述べることができる。

- ▲ 「速度は」「音色は」など音楽の要素を提示し、イメージと合っているところや合っていないところについて述べさせる。

- 自分の高まりや友達の高まりについて発表させたり、学習カードに記入させたりする。

【振り返りカード例 (相互評価部分)】

グループの友だちのがんばりはどうでしたか	〇〇さん	小さい音にするために、ばちを変えていた。	小さい音でえんそうして良かった。
	□□くん	イメージに合うような楽器を選んでいた。	リズムがずれないように足でリズムをとっていた。

**題材名「情景を音楽で表そう」(6年 11月~12月・全5時間)**

**【題材の目標】**

- 情景を音楽で表すことに関心をもち、イメージに合った音楽になっているかを振り返りながら、進んで活動に取り組むことができる。【関心・意欲、態度】
- 自分たちのもつイメージに合うように音楽の要素と結び付けて、グループで工夫して音楽づくりを進めることができる。【音楽のつくり方を学ぶ力】
- 全体の構成や音の重なりを工夫して、音楽をつくって表現することができる。  
【感覚・技能・知識】

教材・・・組曲「惑星」より「金星」 ホルスト作曲

学習過程	学 習 活 動	学習の場・形態(○…椅子 □ …机)
課題把握	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">情景を思い浮かべながら聴こう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「金星」を聴き、感じたことや気付いたことを発表する。</li> <li>○ どんな様子を表しているのか、なぜそう感じるのかを話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 一斉に聴いたり演奏したりすることができるような場</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">スピーカー                      スピーカー</p> <p style="text-align: center;">○○ ○○ ○○ ○○ ○○ ○○ ○○ ○○ ○○ ○○ ○○ ○○</p> </div>
課題追求 I	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">自分たちのイメージに合うように、宇宙の情景を音楽で表そう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 範奏を聴き、どんな宇宙の情景かを想像する。</li> <li>○ グループでテーマを決定し、テーマに合う楽器を選び、音楽づくりをする。</li> <li>○ 相互発表・鑑賞をする。</li> <li>○ 意見や反省を基に、工夫することを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ グループごとに音楽づくりができるような場</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">※机は離す</p> </div>
相互発表・鑑賞 I	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">自分たちのイメージと合っているか気を付けながら、中間発表をしよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 中間発表・鑑賞をする。</li> <li>○ テーマと音楽の要素が結び付いている部分やそうでない部分など意見を出し合う。</li> <li>○ 意見や感想を基に、今後練り直していく課題の部分を明確にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2グループでの学び合いができるような場</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">※机を近づける</p> </div>
課題追求 II	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">情景がもっとよく伝わるように、つくった音楽を練り上げよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 意見や感想を基に、グループで音楽を練り上げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 練り上げの活動ができるような場</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">※机は離す</p> </div>
相互発表・鑑賞 II まとめ	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">つくった音楽の最終発表をしよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 相互発表・鑑賞をする。</li> <li>○ グループごとの発表に対して、中間発表と比べて良くなった点を中心に意見・感想を話し合う。</li> <li>○ 学習のまとめをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 最終発表の場</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">○</p> <p style="text-align: center;">○○ ○○ ○○ ○○ ○○ ○○ ○○ ○○ ○○ ○○ ○○ ○○</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 一斉に友だちの意見や感想が聞けるような場</li> </ul>

## 【こんな学習内容に】

本題材では、自分たちのテーマに合う音楽を工夫してつくることを目標としています。そのために、途中で場面の移り変わりのあるテーマを設定し、イメージと音楽の要素を結び付けながら宇宙の情景を音楽で表す学習内容を設定しました。

## 【ここだけはおさえない】

6年生の「自由な音楽づくり」の活動では、自分たちの設定したテーマに合うように、これまでに学習した音楽の諸要素を結び付けて学習を進めていきます。特に、場面の移り変わりが分かるように、曲の構成を工夫したり、音楽の要素の組合せを工夫したりしていくことが大切になります。また、相互発表・鑑賞では、イメージと音楽の要素とを結び付けながら互いに聴き合う場を設定することで、自分たちの音楽にこだわる思いや友だちの音楽にあこがれをもたせることにつながるでしょう。

教師の具体的な働きかけ	評価規準(○)と手立て(▲)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ イメージと音楽の要素を結び付けることができるようにするために、「<b>どうしてそんな速さや強弱になっているのかな</b>」などと問いかけるようにする。</li> <li>○ イメージをもたせやすくするために、宇宙の写真を黒板に掲示する。</li> <li>○ イメージと音楽の要素との結び付きがはっきり分かるようにするために、<b>場面の移り変わりのあるテーマを設定させる</b>ようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 情景を想像しながら聴くことができる。</li> <li>▲ <b>どんな音色や強弱になっているかを</b>考えさせる。</li> <li>○ イメージを明確にもつことができる。</li> <li>▲ 写真を見たり、絵に描かせたりする。</li> <li>▲ 教師が範奏し、イメージと音楽の要素が結び付いているか考えさせる。</li> </ul>		
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p>【子どもたちの設定したテーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 宇宙船で静かな旅をしているが、流星群に遭遇し、避けながら突き進んでいき、最後は地球に戻ってくる。</li> <li>・ 宇宙旅行中に宇宙人と出会い激しく戦うが、仲良くなり一緒に宇宙旅行を楽しむ。</li> </ul> </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p>【使用楽器例】</p> <p>トーンチャイム、 トライアングル、 タンブリン、すず、 キーボード</p> </td> </tr> </table>	<p>【子どもたちの設定したテーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 宇宙船で静かな旅をしているが、流星群に遭遇し、避けながら突き進んでいき、最後は地球に戻ってくる。</li> <li>・ 宇宙旅行中に宇宙人と出会い激しく戦うが、仲良くなり一緒に宇宙旅行を楽しむ。</li> </ul>	<p>【使用楽器例】</p> <p>トーンチャイム、 トライアングル、 タンブリン、すず、 キーボード</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分たちで決めたまりに従って演奏することができる。</li> </ul>  <p style="text-align: center;">【練習風景】</p>
<p>【子どもたちの設定したテーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 宇宙船で静かな旅をしているが、流星群に遭遇し、避けながら突き進んでいき、最後は地球に戻ってくる。</li> <li>・ 宇宙旅行中に宇宙人と出会い激しく戦うが、仲良くなり一緒に宇宙旅行を楽しむ。</li> </ul>	<p>【使用楽器例】</p> <p>トーンチャイム、 トライアングル、 タンブリン、すず、 キーボード</p>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 音楽づくりが進まないグループには、音楽の要素を選択しやすくするために、<b>音楽の要素にはリズム、強弱、速度、音色などがあることを</b>助言する。</li> <li>○ イメージと音楽の要素とを明確に結び付けるために、他のグループに意見を述べるときには、<b>音楽の要素のうち、何が演奏と合っているのか、合っていないのか</b>を述べさせるように助言する。</li> <li>○ 次時での練り上げの時間での課題を明確にするために、「誰の意見・感想をもとに」、「どのイメージの部分の音楽の要素を練り上げていくのか」を明らかにさせておくようにする。</li> <li>○ 最終発表に向け課題を明確にするために、中間発表会の演奏から音楽のどの部分をどのように変えたかを述べられるようにさせておく。</li> <li>○ 発表したグループに達成感をもたせるために、中間発表と比べて良くなった点を中心に意見・感想を述べさせるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲ 拍の流れにのれない場合は、手拍子や軽く背中を叩くなどする。</li> <li>▲ お互いの表現を聴き合い、いろいろな音楽表現の可能性を知る。</li> <li>○ イメージと音楽の要素とを結び付けて聴くことができる。</li> <li>▲ 教師が音楽の要素を黒板に掲示する。</li> <li>▲ 場面に合う要素は何なのかを教師の範奏を聴いて考える。</li> </ul>  <p style="text-align: center;">【練り上げの風景】</p>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分や友だちの高まりを振り返ることができるようにするために、<b>イメージと音楽の要素を結び付けた演奏ができたことや、自分や友だちが工夫したこと</b>などについて、学習カードで振り返らせるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分たちで決めたまりに従って演奏することができる。</li> <li>○ イメージと音楽の要素を結び付けて音楽づくりを聴くことができる。</li> </ul>		

## IV 研究の成果と課題

「音楽へのあこがれをもち、こだわって取り組む音楽科授業の創造」という研究主題の下、子どもの姿（目標）・学習内容・指導方法と、3年間にわたり研究を進めてきた。3年次に当たる本年度の研究、本シリーズの成果、並びに本シリーズの研究の課題をまとめると以下のようなになる。

### 1 研究の成果

#### 【本年度研究の成果】

- 子どもが音楽づくりにあこがれ、こだわるおもいをもち続けるために、学習内容設定の考え方を再構築し、具体的な指導方法を明らかにすることができた。
- 音楽づくりのパターンごとに指導方法の要件を設定したことで、題材全体の指導計画や授業づくりの基本的な流れを提示することができた。
- お互いの音楽づくりを、それまでの学び合いのよさ等から認め合い、次時に向けて課題を明確にできるような相互評価についての考え方を明らかにすることができた。

#### 【本シリーズの成果】

- 音楽へのあこがれをもち、こだわって取り組む子どもの姿を、三つの培う力の関連から明らかにすることができ、そのような姿が見られるように、学習内容設定の考え方や、指導方法の在り方を明らかにすることができた。
- 音楽づくりの授業における、学年の発達段階に応じた自己評価・相互評価の考え方を明らかにすることができた。

### 2 研究の課題

- 「音楽づくり」以外の内容のまとめ《歌唱・器楽・鑑賞》においても、学ぶ意欲を高めるような子どもの姿を探り、学習内容設定の考え方や指導方法を研究していく必要がある。
- 唱歌や民謡、郷土に伝わるうたに興味・関心を示し、進んで表現したり鑑賞したりするような学習内容・指導方法を研究し、我が国の音楽文化に愛着をもつ子どもを育成していく必要がある。

#### 《参考文献》

- |          |                   |          |        |
|----------|-------------------|----------|--------|
| ○ 文部省    | 「小学校学習指導要領解説 音楽編」 | (教育芸術社   | 平成11年) |
| ○ 宮野モモ子著 | 「小学校 新しい音楽科教育」    | (教育出版    | 2005年) |
| ○ 福井 昭史著 | 「音楽科授業の指導と評価」     | (音楽之友社   | 2004年) |
| ○ 工藤 文三著 | 「学力を育てる“教師力”の向上」  | (教育開発研究所 | 平成17年) |